

目的 現在わが国の老人問題はいろいろの角度から研究されており、また実態調査も行なわれているが、今回、私は大都市近郊の老人の実態について、ある調査を試みたので、これを報告する。

方法 対象は埼玉県埼玉葛福祉事業所管轄下の10ヶ町の65才以上の老人で、各地区の老人クラブの会長、副会長の役にある410名である。方法は10ヶ町を3ブロックに分け、集団面接して質問紙を配布し、本人の記入によった。有効率は各ブロックを平均して86% (352名) であった。調査時期は昭和50年10月～11月である。

結果 質問内容はⅠ健康状態、Ⅱくらし向き、Ⅲ収入源、Ⅳたいくつかどうか、Ⅴ一日の中で最も多く使う時間、Ⅵ生きがい、Ⅶ生きがいの対象などであったが、地域別ではⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの項目に、年齢別ではⅤの項目だけに、また職業別ではⅢ、Ⅴ、Ⅶの項目に有意差が認められた。また全般的には健康状態は良好で、収入は年金に頼る人が多く、毎日の生活は少しもたいくつしないと答えた人が8%もあり、また一日の中で仕事以外に多く使う時間はテレビやラジオと他人のせわや社会奉仕の仕事であった。生きがいについては89%の人が「ある」と答えており、その対象としては、他人のせわや社会奉仕と趣味が最も多かった。